

落葉果樹の商品性向上対策（ナシ、ブドウ）

梅雨も本番となり、ナシ、ブドウの商品性を左右する重要な時期となります。高品質果生産のためにはこの時期をいかに乗り切るかです。笑顔で収穫期を迎えられるようこまめな対応をしてください。

◎ナシ

今年は開花が極端に早くなりました。果樹試験場の開花は平年の4月9日より7日程度早い4月2日に開花しました。開花が早い新高などはそれ以上の早期開花となりました。授粉時の低温の影響もあり、結実量はやや少ない状況です。初期の果実肥大は開花後の気温が比較的低かったため、小玉傾向で推移しました。このため本年の果実肥大は、今後の気象条件にもよりますが小玉傾向で推移するのではないかと考えられます。

ナシは交配70～90日後の肥大ピークを迎えます。この時期は裂果の発生が懸念されるため排水対策や根痛み防止に努めるとともに最終的な摘果は果実の状況を観察し、裂果が見られるようであれば交配90～100日頃に樹上選別を行ってください。本年は果実が後期肥大型の傾向であるため特に注意してください。

・マルチの実施（商品性低下防止対策）

日持ちの良い安定した品質のナシを一日でも早く出荷するためには、タイベックシートマルチを行う必要があります。マルチは株元から1.5～2mに設置します。雨が多い時期ですので株元まできっちり被覆し、雨水の浸入をできるだけ防ぎます。SSによる防除が多いと思いますがマルチはSSの走行と平行した方向に設置し、機械の走行する幅はマルチをせずあけておきます。麦わら等がある場合はマルチの下にワラを敷いておきます。

タイベックのマルチを行うと、

- ① 雨が多い年には熟期が3～5日早くなる、
- ② 収穫前の裂果や落葉が軽減される、
- ③ 湿害や梅雨明け後の乾燥を防止することができ、秋根の伸長が良くなる、
- ④ 表層根が増加する、など梅雨期の多雨による根傷み防止や樹勢の維持の効果が期待できます。

・仕上げ摘果の実施

交配後100日頃までは摘果による後期肥大が期待できます。交配後90～100日頃に仕上げ摘果を行い、後期肥大を促します。

・枝つり、傷果発生防止

この時期は果実が急激に肥大する時期ですので軸折れや傷が付きやすくなります、枝つりやウレタンによる傷防止の対策を行ってください。

・新梢管理

満開後70日頃には新梢の伸びが停止することが大切です。主枝、亜主枝、側枝の先端はしっかり立たせておきます。予備枝は先端の1本が充実するよう他の新梢は誘引するか群芽を残して摘芯してください。満開70日以降も伸長している場合は棚面から45度くらいに誘引します。他の新梢は棚面に誘引しますが果叢葉にじゃまにならないようにして、果叢葉に十分光が当たるようにしてください。

・葉面散布

葉の老化防止、早期落葉防止を図るため満開後100日まではカルシウム剤のセルバイン500倍を10日間隔で散布します。収穫前30～40日にはハイタック500倍液を散布します。ただし新梢管理ができていないと十分な効果は期待できませんので前述した新梢管理をきっちり行っておきましょう。

・豊水のみつ症対策

根の保護・・梅雨時期の根傷みは収穫前の乾燥害を助長し多発の原因となります。幸水と同じように敷きワラとマルチの設置を行い根傷みを防止します。また、みつ症の発生を軽減するためにも梅雨明け後のかん水が重要になります。「玉秋」では夏場の散水によって、生理障害である果肉褐変が軽減されています。

新梢管理・・豊水は7月中旬～8月上旬に新梢伸長が旺盛になります。幸水同様に新梢管理をしっかり行います。

カルシウム剤の散布

7月以降8月上旬までに最低3回は散布し、果実の体質強化を図ってください。

◎ブドウ

・新梢管理

ブドウの新梢伸長は着色はじめ頃には80%以上が伸長停止していることが理想です。着色期を過ぎても伸長が続く場合には葉数20枚程度を残して摘芯します。また、伸長している枝は他の枝の上を伸びているので他の枝のじゃまになっています。不要な枝は棚下に下げ伸びを抑えるとともに必要な葉に十分光が当たるようにします。結果母枝基部の枝は来年の結果母枝として必要な枝ですのでしっかり誘引し充実するようにします。

・最終着果量の決定

ブドウの着色は新梢の伸びや着果量によって左右されます。満開後60日を過ぎても着色がはじまらないようだと着果過多や枝の遅伸びが考えられます。結果母枝単位で着色の状況を確認し、着色が悪いところは早めに房を落としたり、前に述べた新梢管理を行いま

す。着色はじめのこの時期に落とさないとその後の着色向上は期待できませんので樹毎にしっかりと確認しておいてください。

・葉面散布

着色はじめの頃からハイタック液剤やメリット赤を500倍、モーニングルチンは1000倍で葉面散布を2回行います。ハイタックは散布とあわせて2000倍液の土壌かん注を行うとより効果的です。葉面散布は新梢管理をしっかりやってこそ効果が上がりますので手抜きのないようにしてください。

・マルチの実施

ナシと同様この時期の大敵は雨と日照不足です。この2つの害を少しでも軽減し着色を良くする方法がタイベックのマルチです。極端な着色向上は望めませんが着色不良な房が減り、全体として着色の揃いが良くなります。これはマルチをすることで余分な雨水の浸入を防止し根傷みを防ぐことやタイベックの反射が日照不足を軽減し葉の光合成の低下を防ぐためと思われます。このため晴天が続くときより雨年の方がマルチの効果が出やすいと思われます。

設置の仕方はナシと同様ですが、ブドウはナシより根の広がり大きいのでナシより広めに設置してください。設置は硬核期～着色はじめ頃から行いますが、雨が多い場合はそれより早めに設置する方がよいと思います。逆に雨が少ない場合はまとまった雨の後に設置するようにします。

・環状はく皮

着色促進と糖度アップに効果的な方法です。満開30日～40日後（巨峰の場合は満開60日後でも効果があります）に主幹部に形成層まで届くように幅5～10mmのはく皮を行います。処理から癒合するまで約1ヶ月かかりますが注意することは害虫による食害です。癒合中にガットサイドSをはく皮部に塗布したり、使用可能な殺虫剤（フェニックスフロアブル）を散布して防除に努めてください。

・防除（ボルドー液の散布）

袋かけ後は早急にボルドー液を散布します。べと病の予防と葉の硬化のため2～3回回は散布してください。



写真1 収穫間近の幸水



写真2 ナシ「幸水」園のマルチ状況
収穫1ヶ月前からマルチを設置



写真3 ブドウ（ピオーネ）のタイベック設置状況

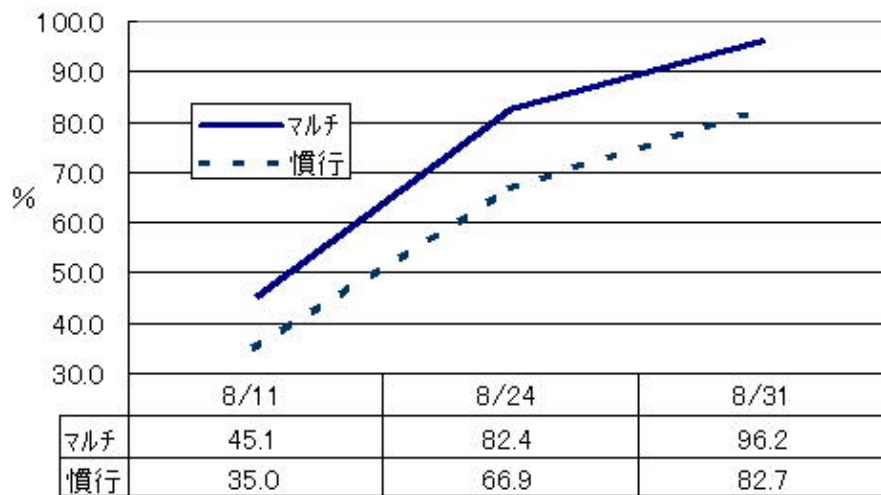


図1 収穫可能果房(果色8以上)の累積収穫率

ブドウはタイベックの被覆により着色不良果房が減少し、早期収穫できる果房が増えています（巨峰）。

第1表 無加温ハウス栽培「巨峰」における環状はく皮の処理時期が
収穫時の果実品質におよぼす影響^{z)}

試験区	果房重 (g)	粒数	一粒重 (g)	着色 ^{y)}	糖度 (Brix)	酸度 (g/100ml)
(2005年 根域制限有)						
満開 35日後はく皮区	361.1a	34.2a	10.6a	8.9b	19.6a	0.56b
満開 65日後はく皮区	360.8a	34.4a	10.5a	9.9a	19.9a	0.58a
無処理区	349.8a	32.7a	10.7a	7.9c	19.0b	0.58ab
(2006年 根域制限無)						
満開 30日後はく皮区	337.4a	30.6a	11.0a	7.6a	18.6a	0.62b
満開 45日後はく皮区	325.6ab	28.5a	11.5a	6.3b	17.3b	0.60b
満開 60日後はく皮区	341.8a	31.5a	10.9a	6.7ab	17.2b	0.61b
無処理区	291.2b	29.8a	9.8b	4.4c	15.0c	0.68a

^{z)} 2005年は8月22日、2006年は8月28日調査、

^{y)} 着色はカラーチャート値

^{x)} 同一列内の異なる英字は Tukey-Kramer の HSD 検定 5%水準で有意差あり

環状はく皮は糖度の上昇と着色促進に効果がみられます



写真4 「巨峰」



写真5 「安芸クイーン」

※高品質な果実が収穫できるよう、手抜きのない管理をお願いします。